社会福祉法人 木の芽福祉会

令和8年度　各事業所計画

御影倶楽部 多機能型	就労継続支援事業B型　　御影倶楽部
	自立訓練(生活訓練)事業 リチェルカ
	就労定着支援事業　　エム・ライズ

咲くら工房 一体型	就労継続支援事業B型　　咲くら工房
	就労継続支援事業B型　　ひらめの家

多機能型　御影倶楽部 一体型　咲くら工房

センター 支援 地域活動	わかば：東灘区
	あんず：灘区

事業所 支援 相談	いろは

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">御影倶楽部</td><td>定員</td><td>24名</td><td>管理者名</td><td>宇野　大典</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="2">就労継続支援B型</td><td>障害種別</td><td colspan="3">精神(発達障害含む)・知的・身体</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">管理者兼サビ管1名、職業指導員2名(兼務1名)、生活支援員4名(非常勤2名)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な事業計画の達成度評価</td><td colspan="6">・多様な利用者を受け入れ和気藹々とした雰囲気は出来たものの、他法人B型との併用への動きや利用者の高齢化等で利用日数が減った利用者が複数名いた。
・一人ひとりの得手ややりがいに合った作業を作った。自主製品は積極的に外部と繋がる取り組みをして工賃アップに貢献し、平均工賃は1.5万円超えも見えてきた。
・メンバーミーティング等を通じて利用者の自主性や意見の表明を大切にした。バウンダリーを学ぶ機会を持ったが、利用者間の距離感の近さが課題でもあった。
・午後閉所でスタッフ会議を持つ時間を確保し、利用者の情報共有や職員間での作業や支援についての共有認識を持てた。</td></tr>
<tr><td>上記に対する拡大/改善課題</td><td colspan="6">・自分に合った仕事や安心できる仲間、相談できる職員がいる事業所であることをメンバーに伝え続け、他事業所で合わなかったら再び御影倶楽部に戻りたいと思ってもらえるようにする。
・異性への不適切な接触で退所者が出てしまった。普段のコミュニケーションの中で自分も相手も尊重することの大事さを伝え続ける。
・体調や高齢化で自力通所が難しくなってきた利用者の送迎や生活の安定については、社会資源との連携がより必要とされる。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">令和8年度　事業計画案</td><td colspan="2">基本方針</td><td colspan="6">・利用者一人ひとりがその人らしく豊かな人生を送れるよう、適性に合った作業、安心して働ける環境や人間関係、仕事以外の楽しみや学びの機会を作り出す。
・職員体制が変わるなか、職員は多様な障害特性や生活環境を持った利用者を支援するため社会資源と繋がりつつ学びや対話を積極的に行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="6">・平均工賃1.5万円確保を目指す。利用者それぞれの障害特性や得意な事を活かす事ができるよう、作業の見える化や個別化を進める。自主製品は商品力向上や販路拡大を図る。ジョブラボとも連携し就職を目指す利用者のモチベーションを上げる。
・利用者も職員も安心して働き、過ごせる環境を維持する。静養室を整理や紙漉き場の整備を進める。
・レクや茶話会等の実施を通して、仕事以外の楽しみや相互理解の機会を持つ。
・メンバーミーティングだけではなく日々のコミュニケーションを通して、他者と安心して生きていくスキルを身につけてもらう。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="6">・職員体制が変わるため、職員間で対話やコミュニケーションをより緊密にしてお互いの仕事や支援の共通認識を持てるようにする。
・午後閉所日を定例化し、非常勤職員を含めた情報共有や会議の時間を設ける。
・法人内外での研修参加等を通して支援力を高める。</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="6">・地域の関係機関等と連携し、学校(特別支援学校、普通校を問わず)で講義やワークショップ等を行い御影倶楽部のことを知ってもらい将来的な利用者確保に繋げる。
・多機能型御影倶楽部やわかばと作業やプログラムを通じて交流を活発に行う。
・土日の開所日を確保することで利用実績の増加と平均工賃額のアップを図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度予測</td><td>5,292日</td><td>評価</td><td colspan="3">新規3名(支援学校卒業生、わかば利用者、以前の利用者の復帰)は定着したが、就職や他事業所への移籍による退所、他事業所との併用が増え予算を下回ってしまった。</td></tr>
<tr><td>令和年8度目標</td><td>5,210日</td><td>対策</td><td colspan="3">支援学校や関係機関への営業活動(紙漉きワークショップの開催等)やSNS発信を積極的に行う。定例で仕事以外の楽しみを提供する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="2">平日9:30～15:30</td><td colspan="2">土日祝</td><td>月1～2回開所</td></tr>
<tr><td>令和9年度のイメージ</td><td colspan="7">支援学校卒業生から高齢化した利用者まで、障害特性や生活環境が多様な利用者集団である構成が今後も見込まれる。関係機関と一層繋がり、安定した生活への支援により利用者の来所日数増加に繋げる。また、障害種別を問わず地域の関係機関からの紹介による利用者増加に向けた広報活動にも力を入れる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">リチェルカ</td><td>定員</td><td>10名</td><td>管理者名</td><td>宇野　大典</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="3">自立訓練(生活訓練)</td><td>障害種別</td><td colspan="2">知的　精神　身体</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">管理者1名(兼務)、サービス管理責任者1名、生活支援員2名(内非常勤1名)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な事業計画の達成度評価</td><td colspan="6">・自己決定の機会を多く持てるようにした。先回りをしない、自分たちで考えたことをやってみるような機会も日々持てるようにできた。自分で考え、やってみる経験を積み重ねてきたことで、少しずつ自分だけで動けるようになったり発信ができるようになってきている。色んな場所へ出掛けたことで自分事としての経験を積むことができ、知っている、やったことがある、といったことを大切にできた。
・定期的な事業所実習に加え個別での事業所実習も実施したことで、進路決定に向けて動くことができた。
・ボランティア団体との繋がりができたことで、ホテルの見学や職場体験、スポーツ観戦、毎月の英語教室やダンスなどプログラムの幅が広がった。
・夏期体験実習や説明会、支援学校の訪問を実施しリチェルカを知ってもらう機会を作った。SNSの投稿は下半期以降は頻度が落ちてしまっていた。</td></tr>
<tr><td>上記に対する拡大/改善課題</td><td colspan="6">・毎年度利用者が変わり雰囲気も変わる中、年度に合わせた訓練内容を日々考えながら行うことができたので、来年度以降も引き続き行っていきたい。
・進路決定に関しては引越しを控えた利用者がおりイレギュラーな形になったが、家族や関係機関と連携し進めていくことができている。
・夏季体験実習や説明会など実施した。SNSに関しては日々の業務で時間が取れない等で後回しになってしまった。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">令和8年度　事業計画案</td><td colspan="2">基本方針</td><td colspan="6">・体験や学び、交流を通して社会や自分を知り、力を伸ばして自分らしい生き方を選択して踏み出すための支援をする。
・利用者だけではなく家族との面談も必要に応じて行うなど個別に対応していく。
・2027年度に向けた利用者獲得のための活動を行っていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="6">・自己決定と振返りを繰り返し気付きを促すことで一人ひとりの自立の手助けを行う。
・自分の意見や困りごと等の発信ができるよう個々に合わせた支援を行う。
・他者のことを考える機会を持つことで他者理解、受止めができるようにする。
・自己理解ができるよう気付きを促すための声掛けや面談などを行う。
・実際の体験によって経験を積み重ねられるよう生活に密着した活動を行う。
・見学、実習等を通して進路決定ができるようにする。
・1年目、2年目利用者の合同、または異なる活動をすることで互いに刺激になるプログラム作りを行う。
・プログラム充実のため地域との繋がりを持てる機会を探す。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="6">・リチェルカ主催の体験実習や見学会、説明会を実施し知ってもらう機会を作る。
・家族へ基本的に細かな連絡等はしない方針だが、家族との連携が不可欠でもあるので、必要に応じた面談や情報共有を行う。また、関係機関との連携も行っていく。
・新しい職員体制でも安定した運営が出来るよう、地活や就B、ボランティア等と協力してプログラム作りを行う。</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="6">・体験実習や見学会、説明会の実施、SNSの投稿、学校などへ営業活動を行うことでリチェルカの活動を知ってもらい新規利用者獲得を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度予測</td><td>1,585日</td><td>評価</td><td colspan="3">利用者数が多いので実績としては大きいが、体調不良などで不定期に休みになる方も数名おり今までとは違った休み方が増えていた。長期休暇や休日は家族で過ごすという利用者は変わらずおり、休日開所は全員が揃うことは難しかった。</td></tr>
<tr><td>令和年8度目標</td><td>1,952日</td><td>対策</td><td colspan="3">利用者が8名になる予定で、過去最多人数になる。実績としては増えるが、様々な場面での安全確保等これまでよりも職員の目が必要になる。人手が増えること、安定することが重要になる</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="2">月～金　9：30～15：30</td><td>土日祝</td><td colspan="3">イベント等に応じて開所</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和9年度のイメージ</td><td colspan="6">職員体制が現在と大きく変わりそうだ。新規利用予定者(令和7年度現在の高校2年生)も今のところ1～2名ほど。令和8年度も見通しの良くない状況になってきているので、令和9年度までは現在見通せない。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">エム・ライズ</td><td>定員</td><td>なし</td><td>管理者名</td><td>宇野大典</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="2">就労定着支援</td><td>障害種別</td><td colspan="3">知的・精神・発達・身体</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">常勤1名(就労継続支援B型と兼務)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な
事業計画
の
達成度
評価</td><td colspan="6">・年度当初5名でスタート。6月に1名利用開始し、6名になったが、8月に1名（利用料がかかるため）9月に3名（2名は契約終了、1名は退職し咲くら工房と契約）退所となった。現在は2名登録
・ほとんどの利用者と月1回の面談を実施することができた。
・定着支援終了者を地域活動支援センターわかばと計画相談に繋ぐことができた。</td></tr>
<tr><td>上記に
対する
拡大/
改善
課題</td><td colspan="6">・企業は本人と雇用契約を結んでいるため家族とは関わらない傾向にあるが、利用者のほとんどが自己決定能力に課題があり家族からの意見に左右されてしまう方が多い。そのため、家族支援も含め求められる定着支援の幅が広がっている。
・毎月の支援報告書の他に、電話やメールで日頃から細やかな連携が取れている企業とそうでない企業がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">令和8年度　事業計画案</td><td colspan="2">基本方針</td><td colspan="6">・月1回の利用者とのコミュニケーションの継続強化
・企業担当との面談を増やしていく。
・ジョブラボとの連携を深める。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="6">・月1回の面談の目的を改めて利用者に伝える。
・現状の悩みや不安等を掘り下げて聞き取っていく中で問題を整理し、優先順位をたてて相談する力をつけて頂く。
・相談しただけで終わるのではなく、解決に向けた助言を受けた後の実践行動および結果の振り返りをおこなう。
・休日の過ごし方、ストレス発散法等、ワークライフバランスを共に考える。
・契約期間終了後の支援体制について関係機関との連携を深める。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="6">・ジョブラボ利用での就職後から定着支援に力を入れていき、スムーズにライズへ移行できる体制づくり
・本人への支援だけでなく企業との信頼関係構築に力を入れ、情報共有により風通しのよい職場環境づくりと信頼を得る。</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="6">12月に就職した1名が定着支援の契約に至れば増加する見込み。
今後のジョブラボの活動動向も大きく影響する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度
予測</td><td>44日</td><td>評価</td><td colspan="4">4名退所(期間満了2件)。利用料がかかる事になったため退所した方がおられた。</td></tr>
<tr><td>令和年8度
目標</td><td>27日</td><td>対策</td><td colspan="4">ジョブラボから就職した利用者が定着支援の契約に至るまで、出来る支援を怠らないようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="2">本人の希望に合わせ決定</td><td colspan="2">土日祝</td><td colspan="2">不定期</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和
9年度の
イメージ</td><td colspan="6">・ジョブラボの支援の見通しを行い、個々の支援の必要性について考える。
・ジョブラボの活動の安定をはかることで安定したメンバーの確保をする。
・引き続き各関係機関への周知と本人や企業へのこまめな支援の実施</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">咲くら工房</td><td>定員</td><td>20名</td><td>管理者名</td><td>野村　明日香</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="4">就労継続支援B型</td><td>障害種別</td><td>精神・知的・身体</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">管理者・サビ管1名、職業指導員2名(1名非常勤)、生活支援員2名(1名兼務)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な事業計画の達成度評価</td><td colspan="6">・R7年度は就職への意向のある利用者が予想外に多く(就労移行支援に2名、クローズで就職1名、超短時間雇用で就職1名)、ジョブラボと連携して取り組めたが生活面のトラブルによる退所者も2名おり、年度半ばから実績は大きく落ち込んでしまった。
・材料費高騰に伴い弁当を600円に値上げしたが前年度に引き続き食数を維持することができ、軽作業も作業量を増やすことができたため咲くら単独ではR6年度20,393円から、R7年度25,000円程に平均工賃アップを実現できそうである。</td></tr>
<tr><td>上記に対する拡大/改善課題</td><td colspan="6">・R8年度も就職を目指している利用者もおり、それぞれの利用者の個別支援を行っていく。
・軽作業の工賃アップと維持のため、韃靼そば茶販売促進の玄関の看板設置やラベルリニューアルに向けた動き。
・弁当作業の時給の底上げにより毎月の工賃を上げる。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">令和8年度　事業計画案</td><td>基本方針</td><td colspan="6">就職希望の方から生活リズム中心の方まで、それぞれの強みを活かし、やりがいをもってその人らしくイキイキと仕事やステップアップに取り組める場所。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="5">・利用者の意向を大切に支援計画を立て、就職希望者にはジョブラボ参加や個別の就労支援を行う。また個人の作業の幅を広げ、やりがいや達成感を感じてもらえるように作業内容、工賃支給方法などを工夫してアップを目指す。
・生活面の支援が重点的に必要な利用者には、職員間での連携・情報共有や環境の工夫、関係機関との連携など個別支援で丁寧に対応していく。
・1人ひとりの障害特性に寄り添った支援ができるよう、職員から課題や学びたい研修内容を聞き取り、スキルアップして職員の成長・支援力強化に繋げる。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="5">・職員間の連携を深め、新しい職員体制での安定した事業運営。
・利用者同士の相互理解、リフレッシュの機会の支援のため、利用者全体会議、レクや法人イベント参加を継続していく。</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="5">・新規利用者を増やしていくため、関係機関(計画相談、相談支援機関などへの事業所説明等)へ出向く。
・土曜や祝日の開所日数を工夫する。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度予測</td><td>3,898日</td><td>評価</td><td colspan="3">利用率の高い利用者の就職に向けたステップアップの退所と、トラブルによる退所が相次いだ。</td></tr>
<tr><td>令和年8度目標</td><td>4,048日</td><td>対策</td><td colspan="3">職員体制の安定と、他機関連携による新規利用者登録</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="3">（月）～（金）</td><td>土日祝</td><td>土曜・祝日開所</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和9年度のイメージ</td><td colspan="6">法人内での高工賃(弁当作業・軽作業ともに底上げ)、最高工賃6万円台を目指したい</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">ひらめの家</td><td>定員</td><td>20　名</td><td>管理者名</td><td>矢口　雅也</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="3">就労継続支援B型</td><td>障害種別</td><td colspan="2">精神・知的・身体</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">管理者1名(兼務)　サビ管1名(兼務)　職員3名(内1名兼務)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な事業計画の達成度評価</td><td colspan="6">昨年度2月に2名、今年度8月に2名、10月に1名、1月に1名合計6名の利用者が登録された事もあり、実績数は予算を超える事が出来た。以前より販売していた「ヒバ消臭袋」をブラッシュアップして販売を開始。秋からは販売先が限定されているがお菓子の販売も開始した。また下請け作業では15社以上から作業を頂き工賃アップに繋がった。5月からは木の芽家族会定例会での自主製品販売の機会を頂き、土日の開所を月に2回とした。「なだびとバザール」にも参加を再開し、六甲カトリック教会のバザーにも参加。近くの保育園の園児さん達には中庭で育てた綿の収穫に来てもらい地域との繋がりを継続出来た。</td></tr>
<tr><td>上記に対する拡大/改善課題</td><td colspan="6">利用者数の増加に伴い下請け作業量を増やした。利用者のやりがいや達成感、モチベーションアップのためにも、自主製品の開発や販路の拡大、７年度の工賃を維持をしながら向上も視野に入れていく。
通所実績は増えたが現在利用されている方の半数が50代以上となっている。高齢の利用者には介護サービス事業所へ情報を共有しサービスに繋ぐ事はできたが、年度半ばに入院や体調不良などで通所出来ない日が増加した。外部関係機関等への利用者増員アプローチは必須だと思われる。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">令和8年度　事業計画案</td><td colspan="2">基本方針</td><td colspan="5">・日々の作業やレク等を通じて利用者同士が個性を認め合い、尊重し合える事業所となるような運営を目指す。
・法人理念にもある「その人らしさ」を大切に支援していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="5">・利用者同士の個性や特性の尊重への配慮、なによりも本人の気持ちを大切にする。作業も細分化して達成感を感じてもらえるように工夫する。
・利用者のやりがいや個性の発揮、工賃向上に繋げるためにも自主製品の開発を継続する。
・利用者一人ひとりの課題を聞き取り職員間で情報を共有し、同時に家族や関係機関と連携をする。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="5">・職員間の情報共有を強化するため、定期的及び随時の会議時間を設定・確保する。
・一体型咲くら工房をメインに法人内の他の事業所との連携や交流が出来るようなイベントやレクリエーションを行う。
・地域との交流を深めるために月に一度の土曜開所を継続する</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="5">・関係機関等への訪問を行う</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度予測</td><td>3,477日</td><td>評価</td><td colspan="2">月に2回の土曜開所を徹底し、その他、作業繁忙期にも開所を実施した。</td></tr>
<tr><td>令和年8度目標</td><td>3,402日</td><td>対策</td><td colspan="2">新規利用者が6名増えたが高齢化は否めず、今後のためにも新規利用者の確保に管理者が営業活動を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="2">月～金曜日・9：00～15：00</td><td>土日祝</td><td colspan="2">月1～2回開所</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和9年度のイメージ</td><td colspan="6">一体型咲くら工房との連携の強化。地域との交流。</td></tr>
</table>

多機能型・一体型　事業計画(案)

	多機能型御影倶楽部	一体型咲くら工房
令和7年度　事業総括概要	・御影倶楽部利用者がリチェルカに移籍した。前年度にも交流があったため移籍はスムーズにできたが年度後半に通所途上事故にあってしまった。リスク管理も踏まえて今後再び御影倶楽部で受け入れるのであれば、計画相談や家族、医療ともしっかり連携を取る必要がある。 ・兼務の在り方の変更があった。それぞれの事業所の安定した事業所運営の継続のため、異動する職員だけではなく全職員の役割や業務負担の見直しをしながら引き継ぎ作業を進めている。 ・ジョブラボが始動した。多機能からは利用者は御影のみの参加だったが、職員は主任や管理職を中心にほぼ全ての職員が何かしらのプログラムを担った。当該事業利用者は年内に就職が決まった。	・軽作業を咲くら工房とひらめの家の両事業所で新たに連携して、利用者の作業確保と収入アップに繋げることができた(益田屋：そばの実検品作業) ・咲くら工房とひらめの家での下請け収入が月平均2～3万円上がった。弁当収入も維持ができ一体型平均2万円以上を初めてクリアできそうな見込みである。
令和8年度事業計画（案）	・新しい兼務職員体制においてもそれぞれの事業所の利用者が安心して通所できるよう、地活を含めて本部施設事業所間の連携をより綿密に行う。ハンズオン関西等のボランティアの力も借りる。 ・ジョブラボに新しい利用者も参加できるよう働きかけるとともに、全ての職員がプログラムを通じて関わり続ける。就職した元御影利用者が6カ月勤務を継続してスムーズにエム・ライズに繋げられるよう、わかば利用来所時に定期的に面談をする。 ・年度途中および来年度新規利用者の確保のため、支援学校や関係機関等に各事業の支援の内容や特徴を伝えるために積極的にSNS等で広報や訪問活動をする。	・販売会では両事業所の商品を一緒に陳列して更に売り上げアップを強化していく。そのために職員、利用者ともに商品のPR知識を学ぶ機会を作る(両事業所での韃靼そば茶試飲、青森ヒバの活用法、お菓子の試食等) ・再度ひらめの家の近隣での弁当の販路拡大を検討する。施設店頭の看板設置やチラシ配布、配達方法の検討を進める。また、下請け等の連携を取っていき両事業所の工賃向上を目指す。

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">わかば</td><td>定員</td><td>20名</td><td>管理者名</td><td>松田　里佳子</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="3">地域活動支援センター(センター型)</td><td>障害種別</td><td colspan="2">精神(発達障害含む)・知的・身体</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">センター長1名・指導員2名(内非常勤1名)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な事業計画の達成度評価</td><td colspan="6">・職員体制の変更により、事業計画の一部は遂行が困難となる中でも基本的役割(居場所、相談場所)は維持することができた。
・法人内他事業終了者の受け入れが増え、法人全体で支える仕組みが機能した。
・見学者や新規登録者は増えたが定期的な来所に至らないケースが多かった。
・2月に「あんずのつどい」(発達障害者の居場所)を実施できた。
・医療や関係機関へ「出張わかば」を周知する活動には着手できなかった。</td></tr>
<tr><td>上記に対する拡大/改善課題</td><td colspan="6">・家族会が実施できなかったため次年度は実施する。
・新規利用者定着のため関係機関との連携を強化して利用者を増やす。
・発達障害者の居場所について今後の在り方を考え実行する。
・利用者がストレングスを活かして主体的に参加できるプログラムを増やす。
・「出張わかば」の目的や内容について医療や関係機関への周知を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">令和8年度　事業計画案</td><td colspan="2">基本方針</td><td colspan="6">・障害種別に関わらず地域で生きづらさを感じる人が利用できる場所となる。
・利用者だけでなく家族にとっても安心できる相談場所となる。
・個別的支援と集団的支援のバランスを考えて支援する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="6">・障害特性の異なる利用者同士が安心して過ごせるための工夫を行う。
・利用者がストレングスを活かして主体的に参加できるプログラムを構築する。
・各職員が電話や面談での相談対応スキルを向上させる。
・必要に応じて自宅訪問を行って、生活状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="6">・業務分担や事務作業の効率化を図りながら職員体制を早期に安定させる。
・地域に新規開業した精神科クリニックや相談支援事業所にアプローチする。
・職員が基礎的事業と機能強化事業への理解を深めて運営する。
・各職員が支援力向上のため研修参加や読書など自己研鑽に努める。</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="6">・利用者から徴収するプログラム費を有効活用する。
・事業所運営に関わる経費については意識して、無駄な出費を削減する。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度予測</td><td>1,300日</td><td>評価</td><td colspan="3">新規利用者は大幅に増加したものの、来所日数は大幅に減少した。</td></tr>
<tr><td>令和年8度目標</td><td>1,500日</td><td>対策</td><td colspan="3">関係機関へのアプローチを行い、新規利用者の増加と定着を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="3">月・火・水（第2/第4）・木・金・日（隔週）10：00～16：00</td><td>土日祝</td><td colspan="2">日曜（隔週）開所
土曜定休</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和9年度のイメージ</td><td colspan="6">・職員体制が安定して新たな取り組みにもチャレンジできている。
・発達障害者の支援について方向性が決定して具体的な活動を開始している。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">あんず</td><td>定員</td><td>20名</td><td>管理者名</td><td>センター長　林　紡</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="3">地域活動支援センター(センター型)</td><td>障害種別</td><td colspan="2">精神（発達障害含む）・知的・身体</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">センター長1名　指導員2名（内、非常勤1名）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な事業計画の達成度評価</td><td colspan="6">・今年度も利用者にとって身近な相談場所であり、他者と関わりながら安心して過ごせる居場所としての機能を維持することができた。新規登録者も例年より多く、来所頻度は様々だが多くの方が利用定着に至っている。
・外部講師やボランティアによるプログラムを積極的に取り入れた他、職員による新たなプログラムもスタートさせ、利用者が主体的に参加でき、QOLの向上につながるプログラム運営を行う事ができた。
・新たな職員体制の下で業務分担の見直しや効率化を進め、SNSの活用等、これまで不十分だった広報活動も発展させる事ができた。
・自立支援協議会やほっとかへんネット等の地域活動(防災訓練、地域住民への講座等)に積極的に参加し、地域交流や広報、啓発活動に繋げる事ができた。
・発達障害者東部相談窓口と協働し、発達障害についての講座実施や、「あんずのつどい(仮)」開催への取り組みを進める事ができた。</td></tr>
<tr><td>上記に対する拡大/改善課題</td><td colspan="6">・利用者の高齢化が進む一方で、これまでよりも若い世代の見学者や問い合わせも増えており、世代に関わらず利用しやすい環境づくりが必要
・さまざまな障害特性や考え方を持つ利用者が同じ空間で過ごす場所であるため、利用者同士の関わりの中で相手を認める事が難しい場面もあった。互いに安心して過ごせる居場所としての支援を引き続き模索する。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">令和8年度　事業計画案</td><td colspan="2">基本方針</td><td colspan="5">・利用者の多様なニーズに合わせて丁寧に関わりながら信頼関係を構築し、プログラム活動や相談を通して利用者一人一人のリカバリーの進展やQOLの向上を支援する。
・地域の支援機関との連携を深め、地域の中で居場所を求める対象者にとって気軽に繋がる事のできる社会資源となる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="5">・利用者にとって身近な相談場所であり、安心して過ごせる居場所としての機能を維持し、利用者が主体的に活動できる環境を提供する。
・職員一人一人が専門職としてスキルアップを目指し、それぞれの強みを活かしながらチーム支援を行う。
・引き続き工夫を重ね、利用者のニーズに合ったプログラム運営を行う。
・「あんずのつどい(仮)」の初回開催(2月)の結果をふまえて今後の課題を検討し、発達障害者支援の取り組みを続ける。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="5">・SNSを活用した広報活動や、地域の関係機関や団体と協働での取り組みを今後も継続し、地域の中での地活の役割の周知や、支援ネットワークの構築を行う。
・職員で協力し合って効率的に業務を行い、環境整備や資料整理などにも取り組む。</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="5">・利用者から頂くプログラム費を有効活用して内容を充実させる。
・事業所運営に関わる経費について意識する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度予測</td><td>2,050日</td><td>評価</td><td colspan="3">新規利用者が例年より多く定着も進んでいる。</td></tr>
<tr><td>令和8年度目標</td><td>2,050日</td><td>対策</td><td colspan="3">引き続き、新規利用者が定着しやすい働きかけや環境づくりを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="2">月・火・水（第1/第3）・木・金・土（隔週）10:00～16:00</td><td>土日祝</td><td colspan="2">土曜日（隔週）開所
日曜日・祝日定休</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和9年度のイメージ</td><td colspan="6">・安定した職員体制の下で各職員が力を発揮して地活の取り組みを発展させている。
・発達障害者の支援について方向性が決定して具体的な活動を開始している。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">事業所名</td><td colspan="2">いろは</td><td>定員</td><td>若干名</td><td>管理者名</td><td>松田　里佳子</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業名称</td><td colspan="3">指定特定相談支援事業所</td><td>障害種別</td><td colspan="2">精神(発達障害含む)・知的</td></tr>
<tr><td colspan="2">スタッフ体制</td><td colspan="6">常勤2名（共に兼務）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度　事業総括</td><td>主な事業計画の達成度評価</td><td colspan="6">・それぞれのケースで家族の状況や生活環境が変化して動きの多い一年だったが、関係機関と連携して対応することができた。
・連絡会や勉強会への参加が困難だった。
・福祉サービス提供時のモニタリング等により、可能な範囲で加算取得ができた。
・職員間で常に報告、連絡、相談を欠かさず協力して運営できた。</td></tr>
<tr><td>上記に対する拡大/改善課題</td><td colspan="6">・引き続き、生活環境の変化や将来への備えなどに寄り添った具体的な支援を行う。
・兼務で時間確保が難しい中でも、できる限り連絡会や勉強会などに参加してスキルアップを図ると共に、ネットワーク拡大を目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">令和8年度　事業計画案</td><td colspan="2">基本方針</td><td colspan="6">・計画相談事業の形にこだわらず地域の相談窓口としての役割を担う。
・「本人主体」を大前提に、利用者が地域で自分らしい生活が送れるよう支援する。
・社会資源の情報を法人内事業所と共有する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取組内容</td><td>支援面</td><td colspan="6">・利用者や家族の願いや不安に寄り添った丁寧な支援を行う。
・支援者間の円滑な連携のために相談支援事業所としての役割を担う。
・高齢福祉分野との連携を視野に入れた準備を進める。</td></tr>
<tr><td>運営面</td><td colspan="6">・業務の分担や効率化を図り、地活との兼務によって生じる負担を軽減する。
・無理のない範囲で加算取得を目指す。
・ケースの緊迫性や職員の状況に応じて担当ケース数を増やすことも考える。</td></tr>
<tr><td>経営</td><td colspan="6">・システム使用料を含む事務費用の一部を賄えるように努力する。
・法人としての相談支援事業の方向性について検討を始める。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">利用日数</td><td>令和7年度予測</td><td>4ケース</td><td>評価</td><td colspan="3">ケース数を維持して丁寧な支援をすることができた。</td></tr>
<tr><td>令和年8度目標</td><td>5ケース</td><td>対策</td><td colspan="3">ケース数を維持または微増して、引き続ききめ細やかな支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">開所日・時間</td><td colspan="3">月・火・木・金（10:00-13:30）</td><td>土日祝</td><td>休み</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和9年度のイメージ</td><td colspan="6">・法人としての相談支援事業の方向性について検討を始める。</td></tr>
</table>